

第 1 部 市民意識調査

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

市民の男女共同参画に対する意識等を調査し、今後の効果的な男女共同参画に関する施策を検討するための基礎資料とすることを目的とした。

2 調査の方法

調査地域 豊岡市全域

調査期間 平成 27 年 7 月 1 日～7 月 14 日

調査対象 満 20 歳以上の男女個人（外国人含む）

対象者数 1,200 人（男性 600 人、女性 600 人）、各年代の男女別に 100 人ずつ抽出

なお、このような抽出法を採用したのは、性差および年代差を確認するうえで、各年代において、一定の回収数を確保する必要があったからである。

対象者抽出の方法 層化無作為抽出法

実査方法 郵送法

3 回収状況

回収数 444 ※男性:191 女性:249 無効数:4

回収率 37.0%

【有効回答数 440（36.7%）】

4 アンケート分析

神戸学院大学（現代社会学部）神原文子教授

第2章 調査の結果

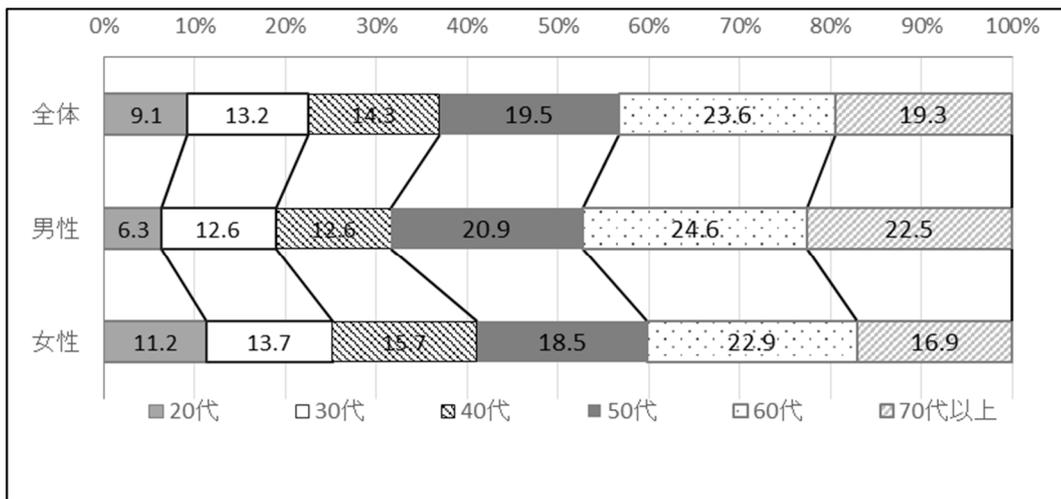
I 基本的属性

1 性別と年齢（問1、問2）

- ◆ 性別は、440 中、女性 56.1%、男性 43.0%である。
- ◆ 年代別では、男性では、20代 6.3%、30代 12.6%、40代 12.6%、50代 21.1%、60代 24.7%、70代以上は 22.6%である。女性では、20代 11.4%、30代 13.8%、40代 15.9%、50代 18.7%、60代 23.2%、70代以上 17.1%である。男性のなかの 20代の回収率が低い。

性別集計:Q2.年齢

	度数	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
全体	440	9.1	13.2	14.3	19.5	23.6	19.3	0.9
男性	191	6.3	12.6	12.6	20.9	24.6	22.5	0.5
女性	249	11.2	13.7	15.7	18.5	22.9	16.9	1.2



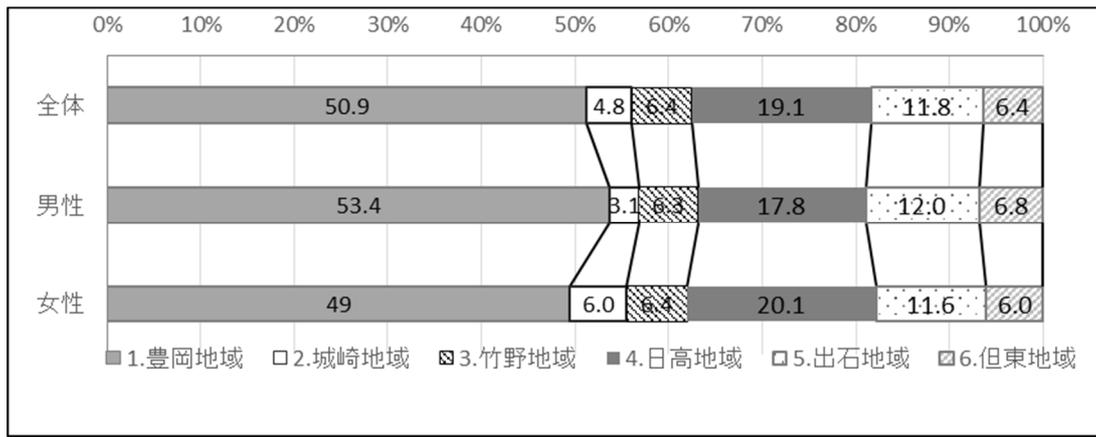
- ◆ 当初、各年代、男女別に 100 人ずつ、抽出したが、回収数は、男女別でも、また、年代別でも差がみられる。そこで、以下の集計では、性別、年代別に、回答傾向を捉えることとする。

2 居住地域（問3）

- ◆ 豊岡地域に、回答者全体の 51.3%が居住している。次いで、日高地域 19.2%、出石地域 11.9%となっている。
- ◆ 城崎地域の居住は、男性よりも女性のほうが倍近い。
- ◆ 年代では、40代において、他の年代よりも豊岡地域の居住者の割合が低く、その分、40代は、他の年代よりも、竹野地域、日高地域、但東地域に多く居住している。

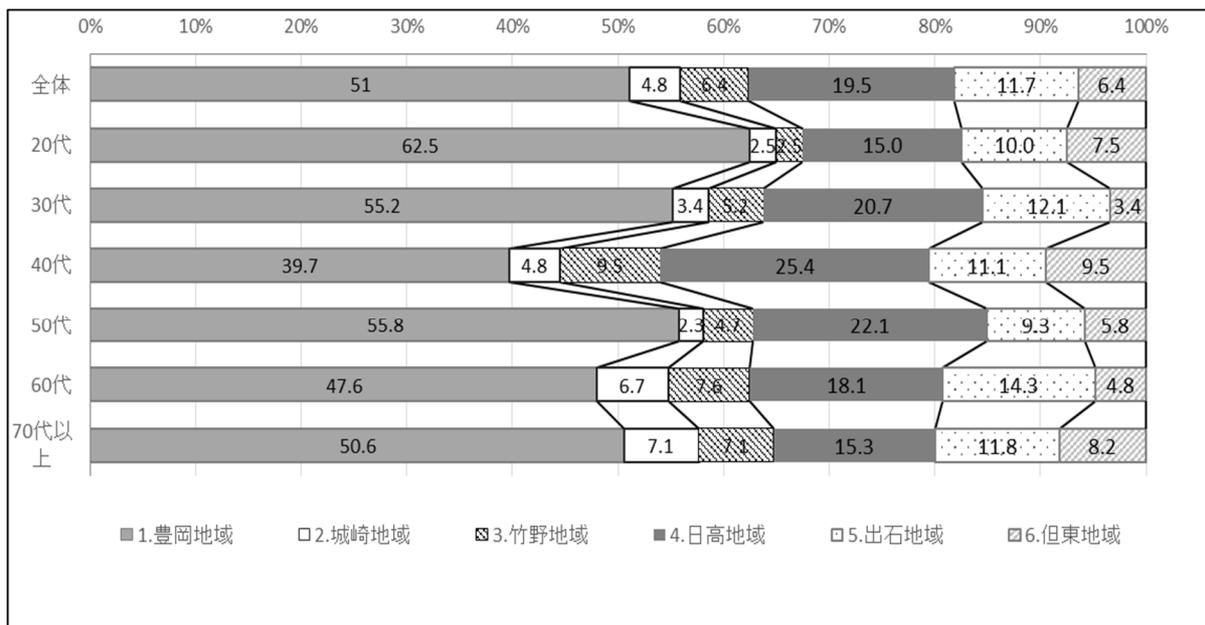
性別集計:Q3.お住まい

	度数	1.豊岡地域	2.城崎地域	3.竹野地域	4.日高地域	5.出石地域	6.但東地域	無回答
全体	440	50.9	4.8	6.4	19.1	11.8	6.4	0.7
男性	191	53.4	3.1	6.3	17.8	12.0	6.8	0.5
女性	249	49.0	6.0	6.4	20.1	11.6	6.0	0.8



年代別集計: Q3.お住まい

	度数	1.豊岡地域	2.城崎地域	3.竹野地域	4.日高地域	5.出石地域	6.但東地域	無回答
全体	437	51.0	4.8	6.4	19.5	11.7	6.4	0.2
20代	40	62.5	2.5	2.5	15.0	10.0	7.5	0.0
30代	58	55.2	3.4	5.2	20.7	12.1	3.4	0.0
40代	63	39.7	4.8	9.5	25.4	11.1	9.5	0.0
50代	86	55.8	2.3	4.7	22.1	9.3	5.8	0.0
60代	105	47.6	6.7	7.6	18.1	14.3	4.8	1.0
70代以上	85	50.6	7.1	7.1	15.3	11.8	8.2	0.0

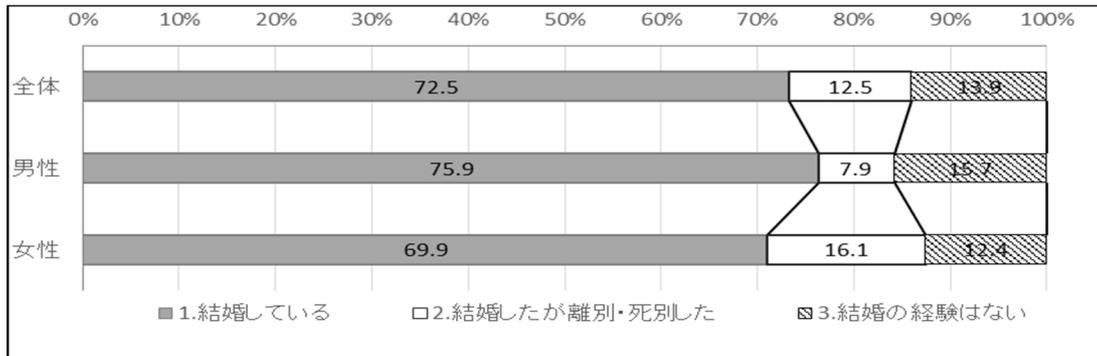


3 未既婚 (問 4)

- ◆ 全体では、「結婚している」73.3%、「結婚したが、離別・死別した」12.6%、「結婚の経験はない」14.0%である。
- ◆ 未婚率は、男性 15.8%、女性 12.7%であり、男性は女性よりもやや高く、「離別・死別」は、女性 16.3%、男性 7.9%であり、女性が男性よりも高い。

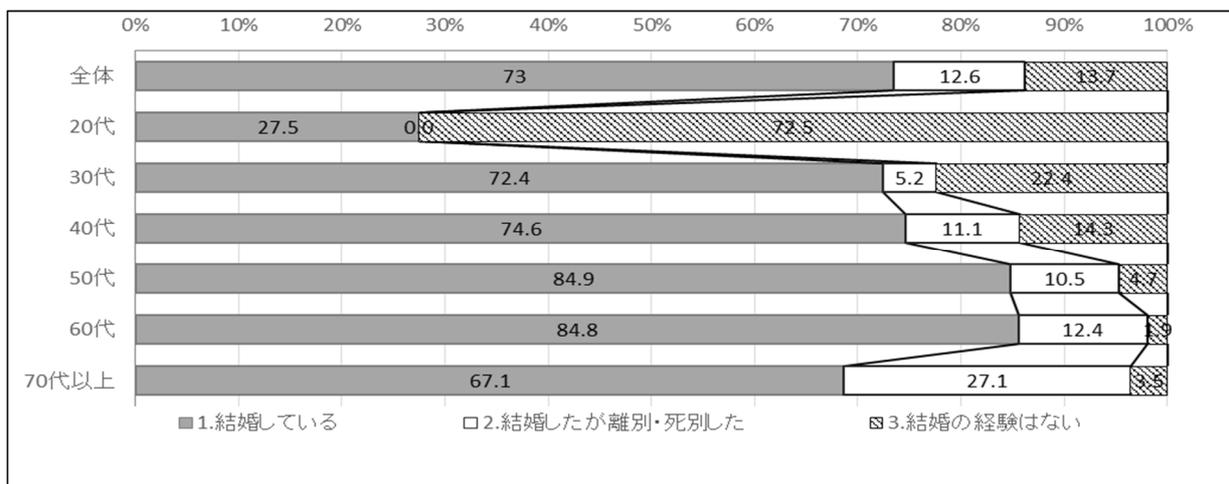
性別集計:Q4.結婚経験の有無

	度数	1.結婚している	2.結婚したが離別・死別した	3.結婚の経験はない	無回答
全体	440	72.5	12.5	13.9	1.1
男性	191	75.9	7.9	15.7	0.5
女性	249	69.9	16.1	12.4	1.6



年代別集計:Q4.結婚経験の有無

	度数	1.結婚している	2.結婚したが離別・死別した	3.結婚の経験はない	無回答
全体	437	73.0	12.6	13.7	0.7
20代	40	27.5	0.0	72.5	0.0
30代	58	72.4	5.2	22.4	0.0
40代	63	74.6	11.1	14.3	0.0
50代	86	84.9	10.5	4.7	0.0
60代	105	84.8	12.4	1.9	1.0
70代以上	85	67.1	27.1	3.5	2.4

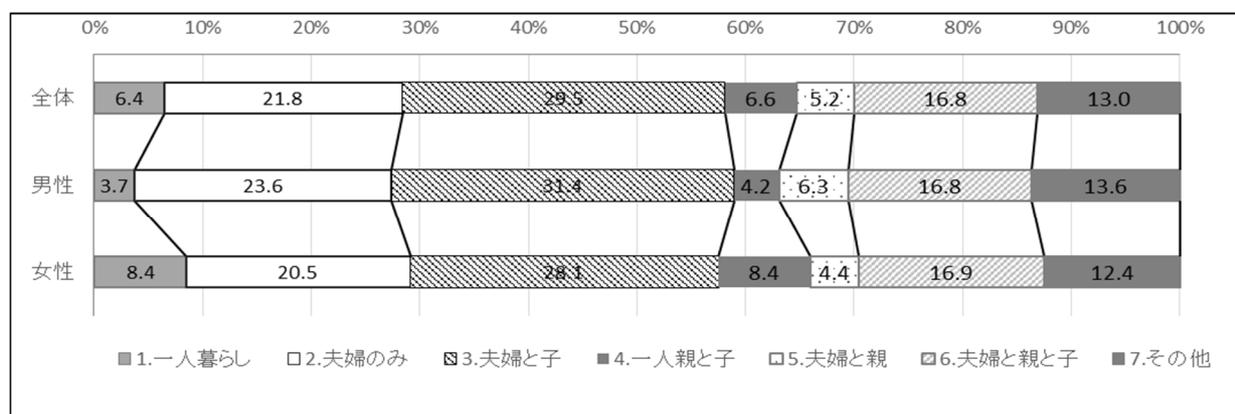


4 家族構成 (問5)

- ◆ 全体として、「夫婦と子」29.7%が最も多く、「夫婦のみ」22.0%、「夫婦と親と子」16.9%と続く。
- ◆ 「一人暮らし」は、男性3.7%、女性8.5%、「ひとり親と子」は、男性4.2%、女性8.5%と、男女の差が大きい。
- ◆ 「ひとり暮らし」は、20代12.8%と70代以上15.3%と、他の年代よりも多い。また、60代以上で、「夫婦のみ」が増加している。

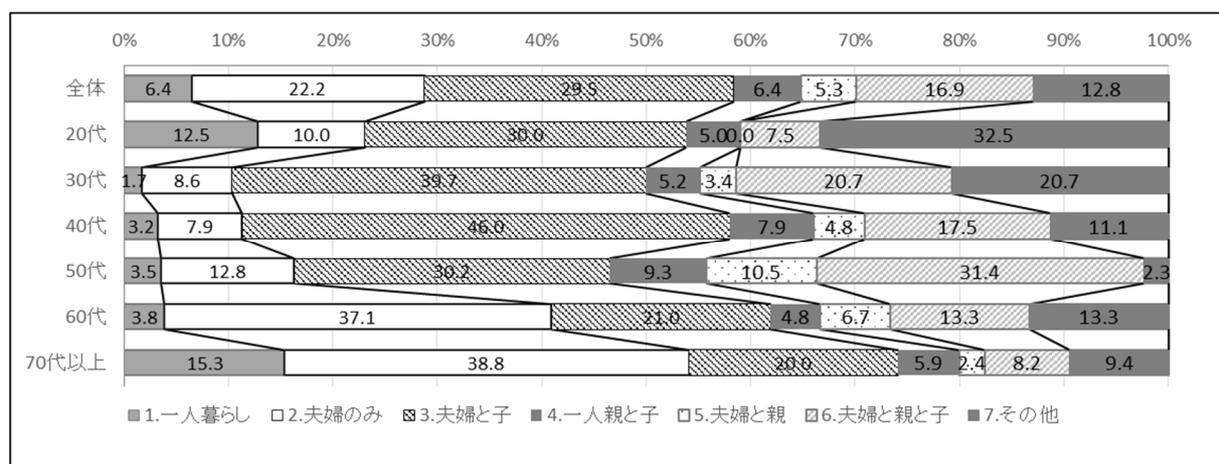
性別集計:Q5.家族構成

	度数	1.一人暮らし	2.夫婦のみ	3.夫婦と子	4.一人親と子	5.夫婦と親	6.夫婦と親と子	7.その他	無回答
全体	440	6.4	21.8	29.5	6.6	5.2	16.8	13.0	0.7
男性	191	3.7	23.6	31.4	4.2	6.3	16.8	13.6	0.5
女性	249	8.4	20.5	28.1	8.4	4.4	16.9	12.4	0.8



年代別集計:Q5.家族構成

	度数	1.一人暮らし	2.夫婦のみ	3.夫婦と子	4.一人親と子	5.夫婦と親	6.夫婦と親と子	7.その他	無回答
全体	437	6.4	22.2	29.5	6.4	5.3	16.9	12.8	0.5
20代	40	12.5	10.0	30.0	5.0	0.0	7.5	32.5	2.5
30代	58	1.7	8.6	39.7	5.2	3.4	20.7	20.7	0.0
40代	63	3.2	7.9	46.0	7.9	4.8	17.5	11.1	1.6
50代	86	3.5	12.8	30.2	9.3	10.5	31.4	2.3	0.0
60代	105	3.8	37.1	21.0	4.8	6.7	13.3	13.3	0.0
70代以上	85	15.3	38.8	20.0	5.9	2.4	8.2	9.4	0.0



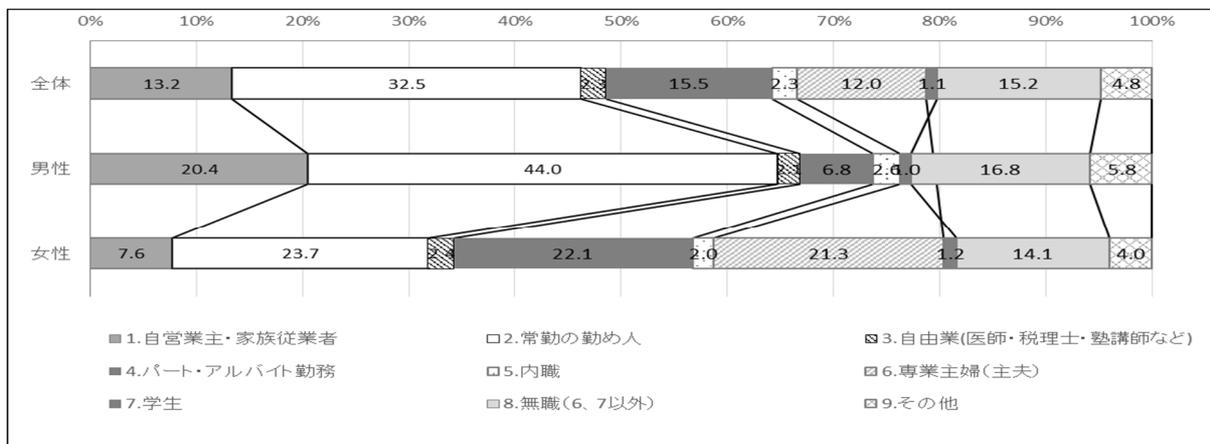
- ◆ 「その他」の中に、「夫婦と子と孫」2人、「本人、子、父、祖母」1人、「祖母、両親、本人、妹」1人、「両親と本人」2人、「親、本人、子」1人、「祖父母と孫」1人が含まれている。家族構成については、家族内における回答者ご本人の位置により捉え方が異なることに留意した選択肢を用意する必要があった。

5 本人の職業（問6）

- ◆ 職業は、男女で差が大きく、男性では、「常勤の勤め人」44.2%、「自営業主・家族従業者」20.5%、「無職」16.8%が多く、女性では、「常勤の勤め人」24.1%、「パート・アルバイト勤務」22.4%、「専業主婦」21.6%、「無職」14.3%となっている。
- ◆ 20代から50代まで、「常勤の勤め人」が過半数以上であるが、60代以上では、「自営業主・家族従業者」、「専業主婦」、「無職」が増える。
- ◆ 40代において、「自営業主・家族従業者」19.0%と、他の年代よりも高い。

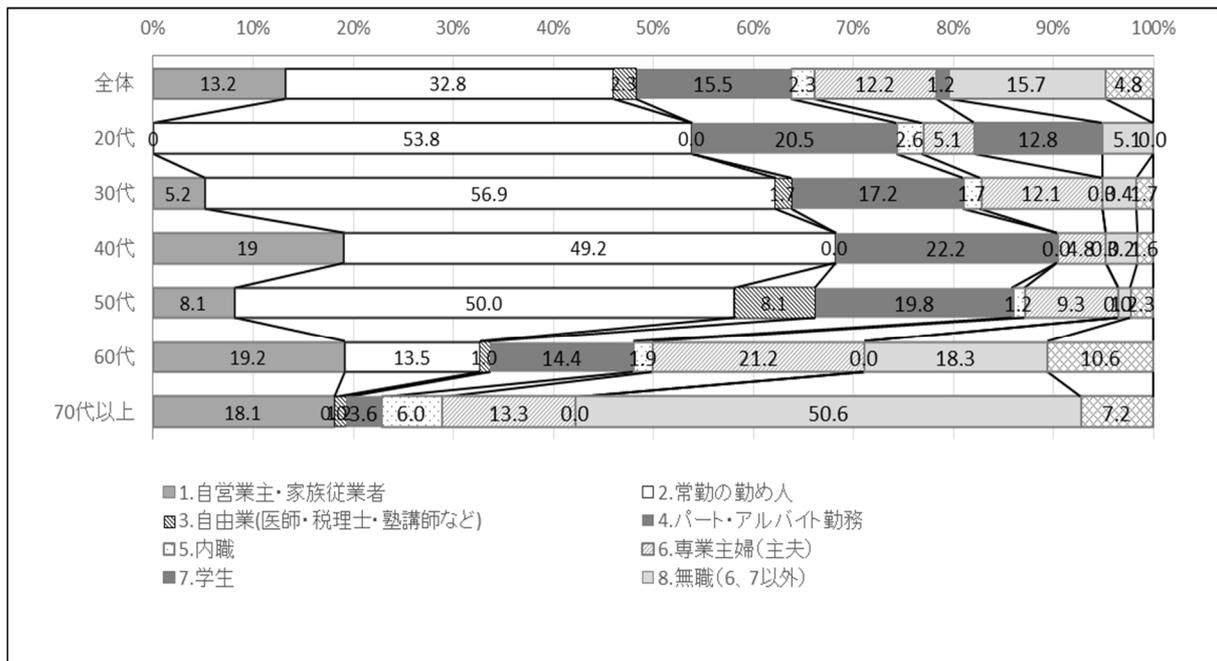
性別集計:Q6.職業

	1.自営業主・ 家族従業者	2.常勤の勤 め人	3.自由業(医 師・税理士・ 塾講師など)	4.パート・ア ルバイト勤務	5.内職	6.専業主婦 (主夫)	7.学生	8.無職(6,7 以外)	9.その他	無回答	
全体	440	13.2	32.5	2.3	15.5	2.3	12.0	1.1	15.2	4.8	1.1
男性	191	20.4	44.0	2.1	6.8	2.6		1.0	16.8	5.8	0.5
女性	249	7.6	23.7	2.4	22.1	2.0	21.3	1.2	14.1	4.0	1.6



年代別集計:Q6.職業

	1.自営業主・ 家族従業者	2.常勤の勤 め人	3.自由業(医 師・税理士・ 塾講師など)	4.パート・ア ルバイト勤務	5.内職	6.専業主婦 (主夫)	7.学生	8.無職(6,7 以外)	9.その他	無回答	
全体	437	13.0	32.5	2.3	15.3	2.3	12.1	1.1	15.6	4.8	0.9
20代	40	0.0	52.5	0.0	20.0	2.5	5.0	12.5	5.0	0.0	2.5
30代	58	5.2	56.9	1.7	17.2	1.7	12.1	0.0	3.4	1.7	0.0
40代	63	19.0	49.2	0.0	22.2	0.0	4.8	0.0	3.2	1.6	0.0
50代	86	8.1	50.0	8.1	19.8	1.2	9.3	0.0	1.2	2.3	0.0
60代	105	19.0	13.3	1.0	14.3	1.9	21.0	0.0	18.1	10.5	1.0
70代以上	85	17.6	0.0	1.2	3.5	5.9	12.9	0.0	49.4	7.1	2.4



◆ 「男女で職業に違いがあって当たり前」である現状そのものに注意を向ける必要がある。

6 配偶者の職業 (問7)

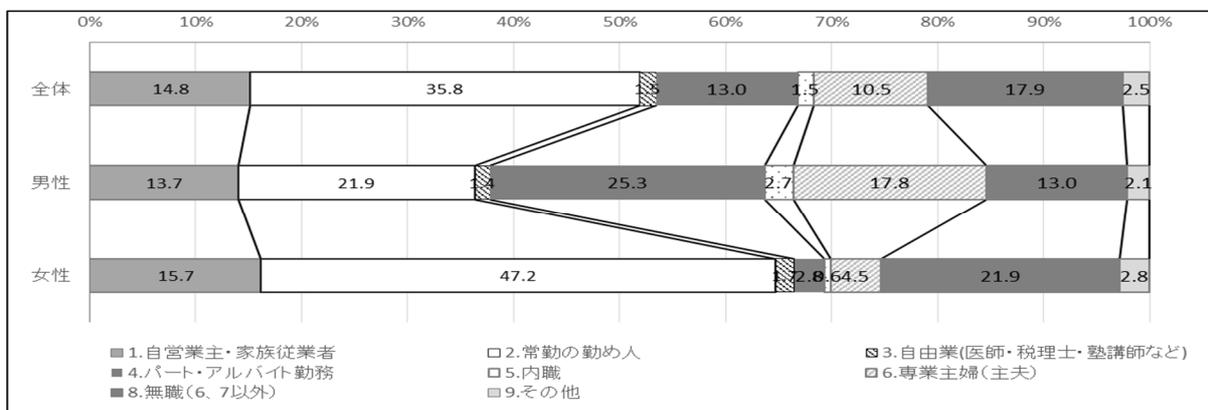
◆ 配偶者のいる回答者は 328 人であり、性別でみると、本人の職業の性別と配偶者の職業の性別を入れ替えると、おおよそよく似た数値になっている。

※328 人のうち、性別に回答しなかった回答者が 4 名、年齢に回答しなかった回答者が 6 名存在したため、性別集計は 324 名、年代別集計は 322 名を対象として集計している。以下の該当設問でも性別および年齢に回答していない回答者は除外して集計を行っている。

◆ 20 代、30 代、40 代で、「無職」が極端に少ない。

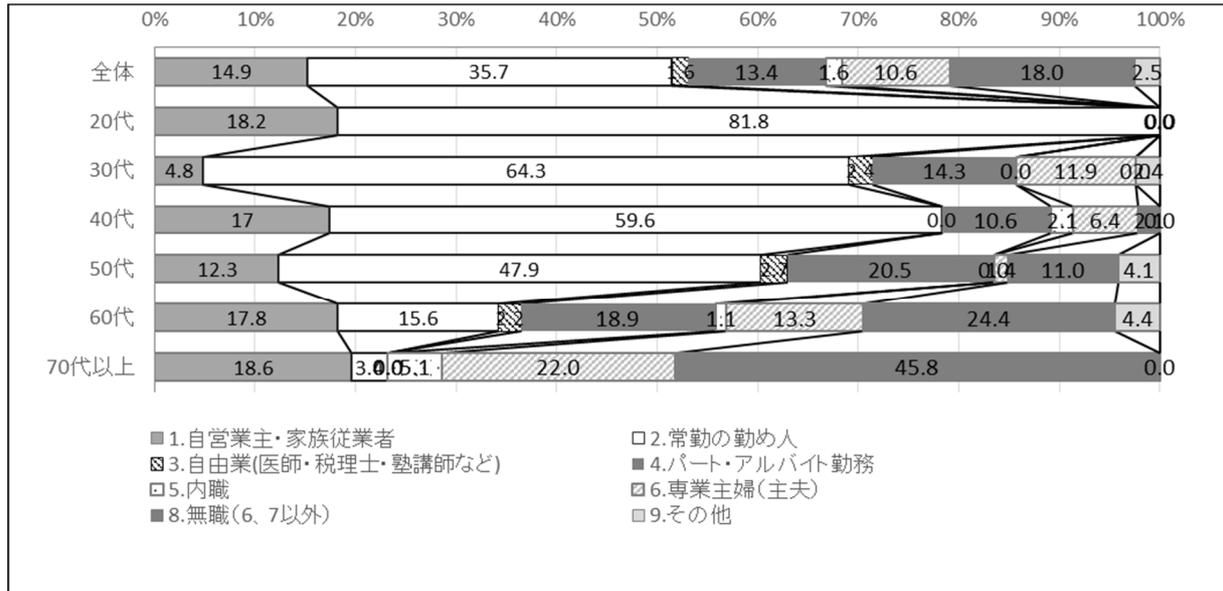
性別集計: Q7. 配偶者の職業

度数	1.自営業主・家族従業者	2.常勤の勤め人	3.自由業(医師・税理士・塾講師など)	4.パート・アルバイト勤務	5.内職	6.専業主婦(主夫)	8.無職(6, 7以外)	9.その他	無回答
全体	324	14.8	35.8	1.5	13.0	1.5	10.5	17.9	2.5
男性	146	13.7	21.9	1.4	25.3	2.7	17.8	13.0	2.1
女性	178	15.7	47.2	1.7	2.8	0.6	4.5	21.9	2.8



年代別集計: Q7.配偶者の職業

	1.自営業主・ 家族従業者	2.常勤の勤 め人	3.自由業(医 師・税理士・ 塾講師など)	4.パート・ア ルバイト勤務	5.内職	6.専業主婦 (主夫)	8.無職(6、7 以外)	9.その他	無回答	
全体	322	14.9	35.7	1.6	13.4	1.6	10.6	18.0	2.5	1.9
20代	11	18.2	81.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代	42	4.8	64.3	2.4	14.3	0.0	11.9	0.0	2.4	0.0
40代	47	17.0	59.6	0.0	10.6	2.1	6.4	2.1	0.0	2.1
50代	73	12.3	47.9	2.7	20.5	0.0	1.4	11.0	4.1	0.0
60代	90	17.8	15.6	2.2	18.9	1.1	13.3	24.4	4.4	2.2
70代以上	59	18.6	3.4	0.0	0.0	5.1	22.0	45.8	0.0	5.1

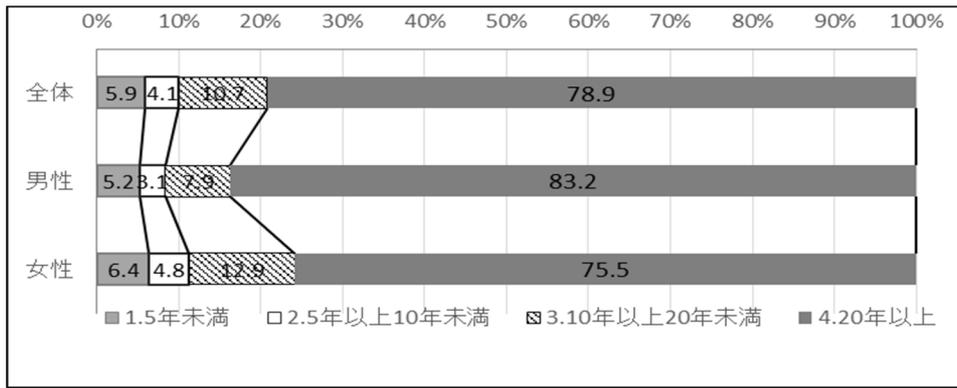


7 居住年数 (問 8)

- ◆ 女性は男性よりも、若干、居住年数が短いものの、「20年以上」は、男性 83.7%、女性 75.8%と高い割合である。
- ◆ 居住年数「5年未満」は、20代 22.5%、30代 17.2%であるが、40代では、1.6%にすぎない。いずれの年代も、「20年以上」が過半数以上であり、年代が上がるほど高くなる。

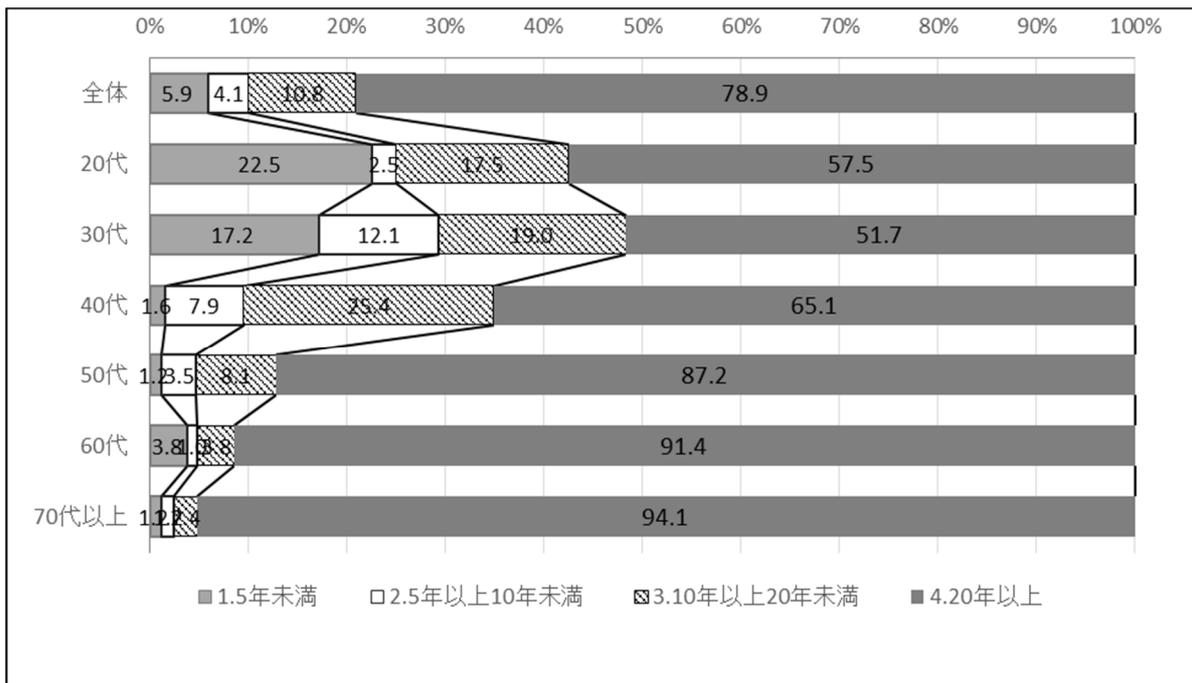
年代別集計: Q8.居住年数

	1.5年未満	2.5年以上 10年未満	3.10年以上 20年未満	4.20年以上	無回答	
全体	437	5.9	4.1	10.8	78.9	0.2
20代	40	22.5	2.5	17.5	57.5	0.0
30代	58	17.2	12.1	19.0	51.7	0.0
40代	63	1.6	7.9	25.4	65.1	0.0
50代	86	1.2	3.5	8.1	87.2	0.0
60代	105	3.8	1.0	3.8	91.4	0.0
70代以上	85	1.2	1.2	2.4	94.1	1.2



年代別集計: Q8.居住年数

	度数	1.5年未満	2.5年以上10年未満	3.10年以上20年未満	4.20年以上	無回答
全体	437	5.9	4.1	10.8	78.9	0.2
20代	40	22.5	2.5	17.5	57.5	0.0
30代	58	17.2	12.1	19.0	51.7	0.0
40代	63	1.6	7.9	25.4	65.1	0.0
50代	86	1.2	3.5	8.1	87.2	0.0
60代	105	3.8	1.0	3.8	91.4	0.0
70代以上	85	1.2	1.2	2.4	94.1	1.2



II 性別役割分担意識

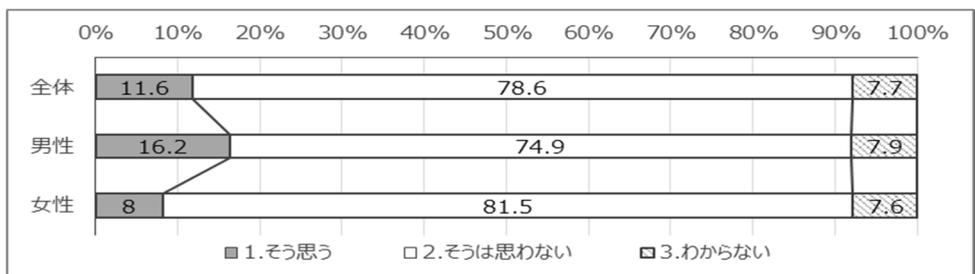
1 性別役割分担意識 (問 9)

- ◆ 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識については、男女間で統計的に有意差がある。男性では、「そう思う」16.4%、「そうは思わない」75.7%、女性では、「そう思う」8.3%、「そうは思わない」83.9%である。

- ◆ 年代別では、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識に差がある。「そう思う」という回答は、70代以上で21.7%と他の年代と比べて高い傾向が見られる。また、30代、20代においても、「そう思う」という数値が、40代、50代、60代よりも高い傾向が見られる。

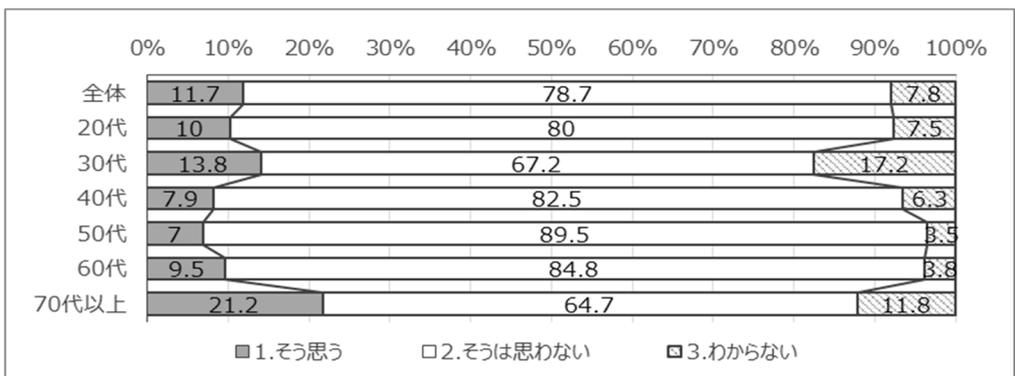
性別集計:Q9. 男女役割分担意識

	度数	1.そう思う	2.そうは思わない	3.わからない	無回答
全体	440	11.6	78.6	7.7	2.1
男性	191	16.2	74.9	7.9	1.1
女性	249	8.0	81.5	7.6	2.8



年代別集計:Q9. 男女役割分担意識

	度数	1.そう思う	2.そうは思わない	3.わからない	無回答
全体	437	11.7	78.7	7.8	1.8
20代	40	10.0	80.0	7.5	2.5
30代	58	13.8	67.2	17.2	1.7
40代	63	7.9	82.5	6.3	3.2
50代	86	7.0	89.5	3.5	0.0
60代	105	9.5	84.8	3.8	1.9
70代以上	85	21.2	64.7	11.8	2.4



1-1 性別役割分担意識を肯定する理由 (問 10-ア)

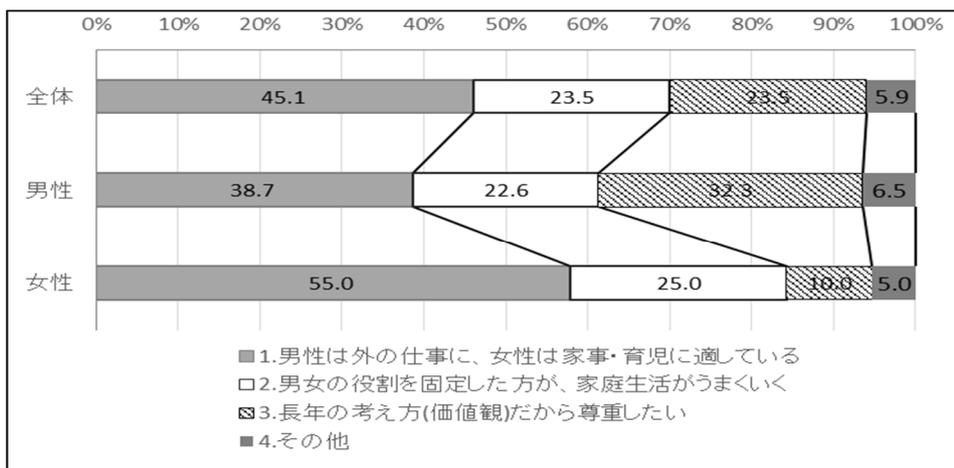
回答者 51人中、男性31人、女性20人

- ◆ 性別役割分担意識を肯定する人々の中で、男性では、「男性は外の仕事に、女性は家事・育児に適している」38.7%、「長年の考え方(価値観)だから尊重したい」32.3%が高い比率を占めており、女性では「男性は外の仕事に、女性は家事・育児に適している」57.9%が高い比率を占めている。

- ◆ 40代、50歳、60代では、「男性は外の仕事に、女性は家事・育児に適している」が過半数を占めているが、30代以下では、「男女の役割を固定した方が、家庭生活がうまくいく」の比率が高くなっている。

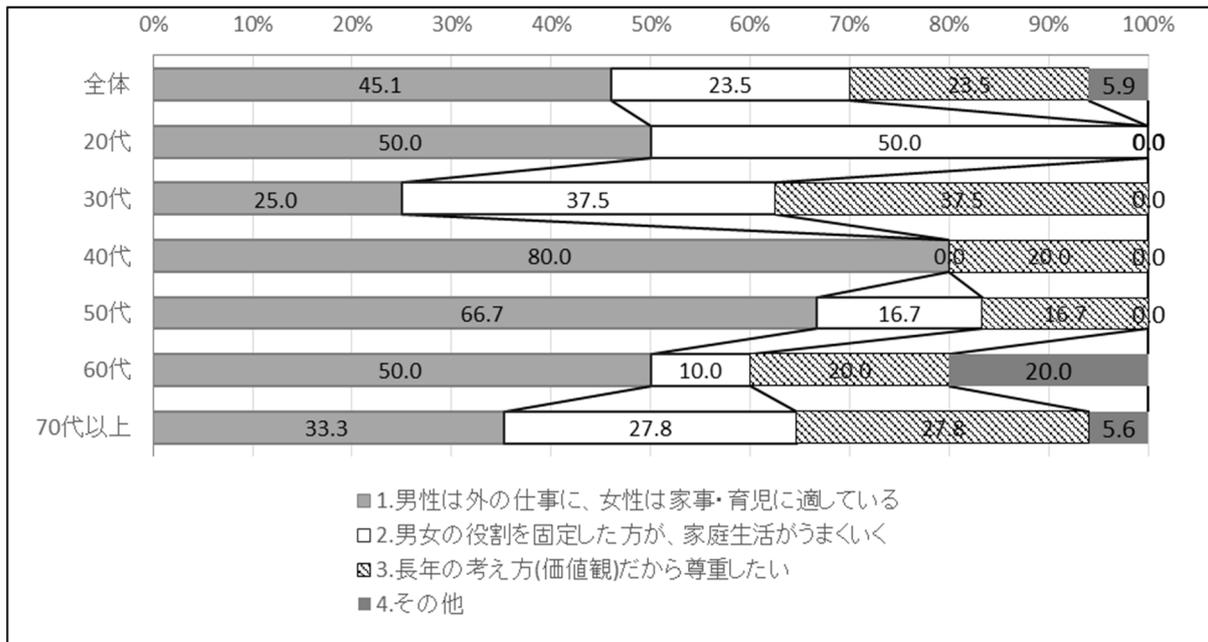
性別集計: Q10s1. 肯定理由: 男女役割分担意識

	度数	1.男性は外の仕事に、女性は家事・育児に適している	2.男女の役割を固定した方が、家庭生活がうまくいく	3.長年の考え方(価値観)だから尊重したい	4.その他	無回答
全体	51	45.1	23.5	23.5	5.9	2.0
男性	31	38.7	22.6	32.3	6.5	0.0
女性	20	55.0	25.0	10.0	5.0	5.0



年代別集計: Q10s1. 肯定理由: 男女役割分担意識

	度数	1.男性は外の仕事に、女性は家事・育児に適している	2.男女の役割を固定した方が、家庭生活がうまくいく	3.長年の考え方(価値観)だから尊重したい	4.その他	無回答
全体	51	45.1	23.5	23.5	5.9	2.0
20代	4	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
30代	8	25.0	37.5	37.5	0.0	0.0
40代	5	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0
50代	6	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0
60代	10	50.0	10.0	20.0	20.0	0.0
70代以上	18	33.3	27.8	27.8	5.6	5.6



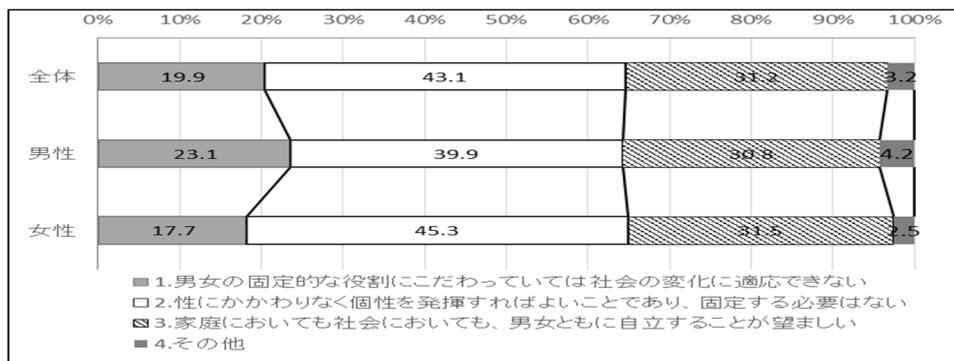
1-2 男女役割分担意識を否定する理由 (問 10-イ)

回答者 346 人中、男性 143 人、女性 203 人

- ◆ 性別役割分担意識を否定している人の中で、「性にかかわらず個性を發揮すればよいことであり、固定する必要はない」は男女とも高く、男性 40.7%、女性 46.7%である。次いで「家庭においても社会においても、男女ともに自立することが望ましい」は、男性 31.4%、女性 32.5%である。
- ◆ 年代別では、30 代では、「性にかかわらず個性を發揮すればよいことであり、固定する必要はない」は 6 割を超えており、60 代では、「家庭においても社会においても、男女ともに自立することが望ましい」が 46.2%と最も高くなっている。

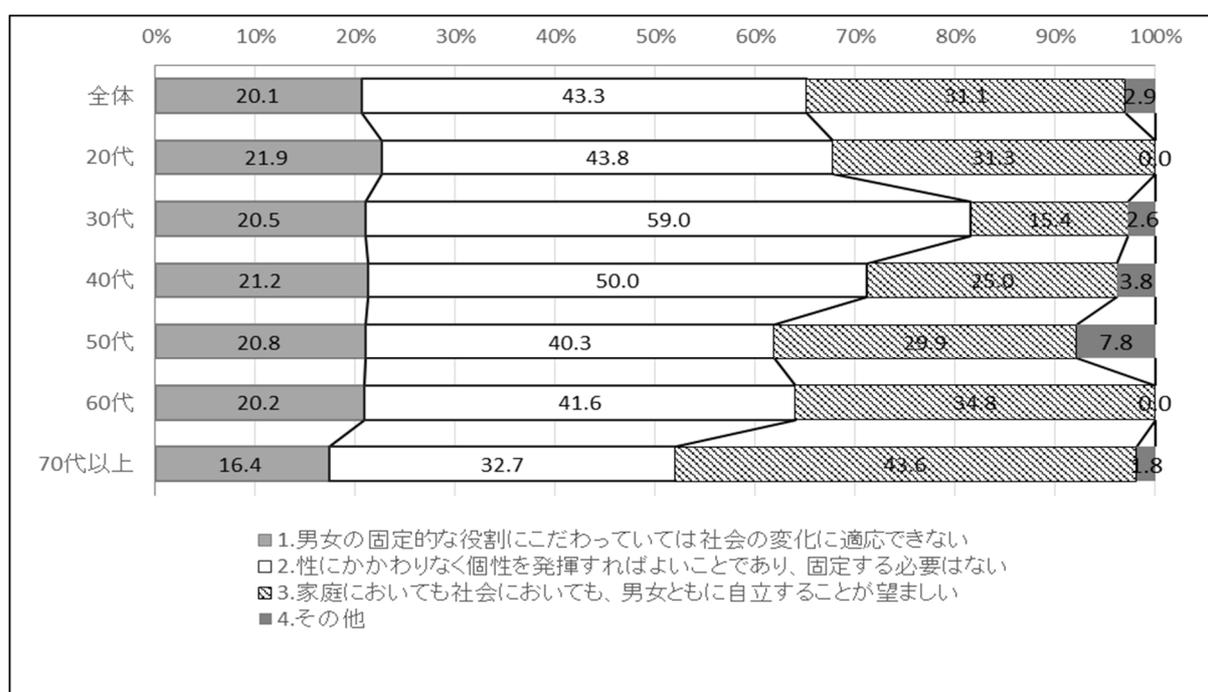
性別集計: Q10s2. 否定理由: 男女役割分担意識

	度数	1.男女の固定的な役割にこだわっているのは社会の変化に適応できない (%)	2.性にかかわらず個性を發揮すればよいことであり、固定する必要はない (%)	3.家庭においても社会においても、男女ともに自立することが望ましい (%)	4.その他 (%)	無回答 (%)
全体	346	19.9	43.1	31.2	3.2	2.6
男性	143	23.1	39.9	30.8	4.2	2.1
女性	203	17.7	45.3	31.5	2.5	3.0



年代別集計:Q10s2. 否定理由:男女役割分担意識

	度数	1.男女の固 定的な役割 にこだわっ ては社会 の変化に適 応できない	2.性にかか わりなく個性 を発揮すれ ばよいこと であり、固定 する必要は ない	3.家庭にお いても社会 においても、 男女ともに 自立するこ とが望まし い	4.その他	無回答
全体	344	20.1	43.3	31.1	2.9	2.6
20代	32	21.9	43.8	31.3	0.0	3.1
30代	39	20.5	59.0	15.4	2.6	2.6
40代	52	21.2	50.0	25.0	3.8	0.0
50代	77	20.8	40.3	29.9	7.8	1.3
60代	89	20.2	41.6	34.8	0.0	3.4
70代以上	55	16.4	32.7	43.6	1.8	5.5

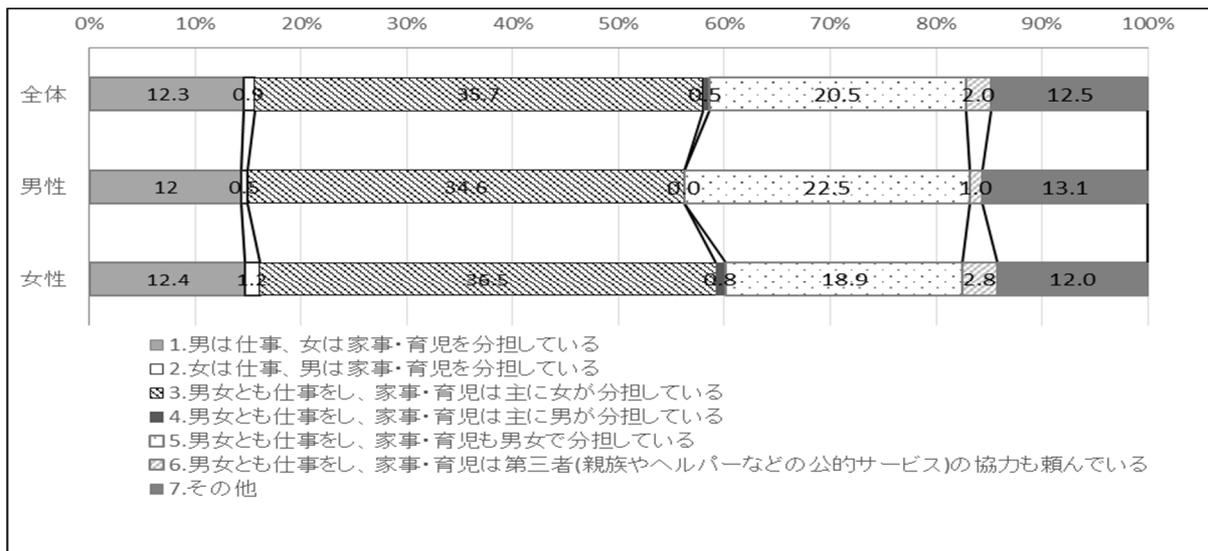


2 男女役割分担の実行 (問 11)

- ◆ 「家庭での男女の役割分担について、あなたの家庭ではどうなっているか」を問う設問について、「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女が分担している」のは、男性の41.3%、女性の43.1%である。ついで、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」のは、男性26.9%、女性22.3%である。しかし、「男は仕事、女は家事・育児を分担している」のは、男性14.4%、女性14.7%と大差ない。
- ◆ 年代別にみると、年代が低いほど、「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女が分担している」比率が約半数を占め、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」のは、いずれの年代も25%前後であり、大差ない。

性別集計:Q11. 男女役割分担実行

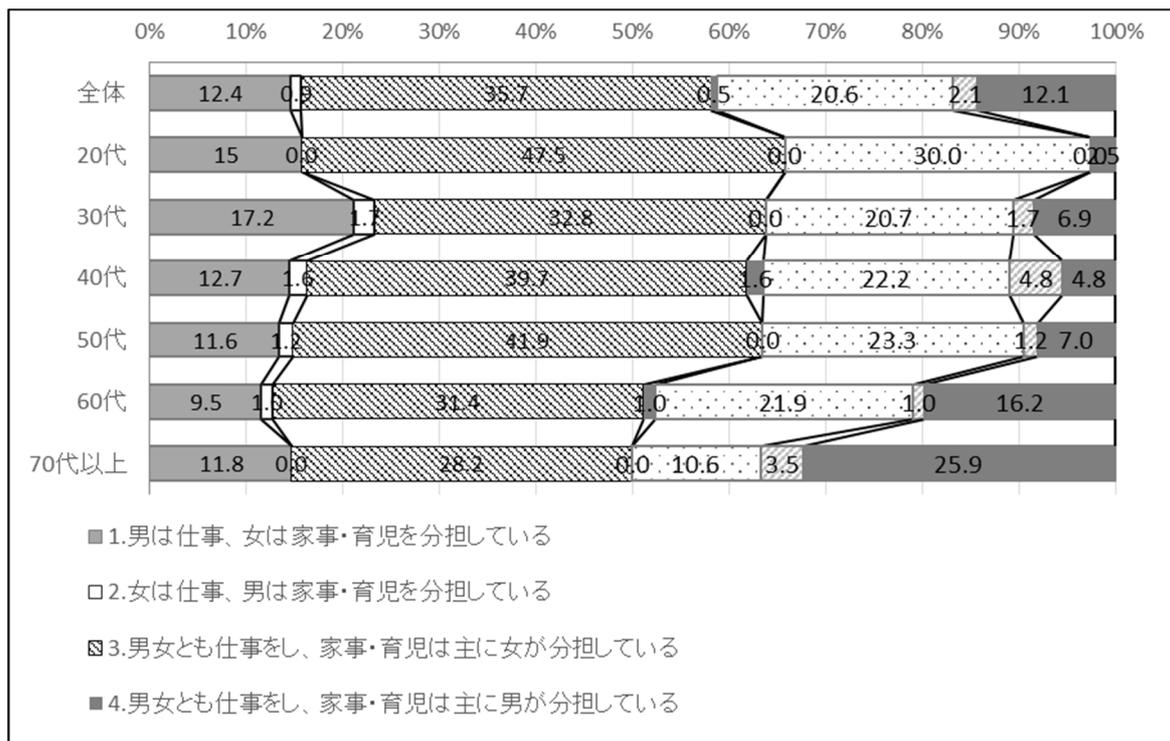
	1.男は仕事、女は家事・育児を分担している	2.女は仕事、男は家事・育児を分担している	3.男女とも仕事をし、家事・育児は主に女が分担している	4.男女とも仕事をし、家事・育児は主に男が分担している	5.男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している	6.男女とも仕事をし、家事・育児は第三者(親族やヘルパーなどの公的サービス)の協力も頼んでいる	7.その他	無回答	
全体	440	12.3	0.9	35.7	0.5	20.5	2.0	12.5	15.7
男性	191	12.0	0.5	34.6	0.0	22.5	1.0	13.1	16.2
女性	249	12.4	1.2	36.5	0.8	18.9	2.8	12.0	15.3



年代別集計:Q11. 男女役割分担実行

	1.男は仕事、女は家事・育児を分担している	2.女は仕事、男は家事・育児を分担している	3.男女とも仕事をし、家事・育児は主に女が分担している	4.男女とも仕事をし、家事・育児は主に男が分担している	5.男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している	6.男女とも仕事をし、家事・育児は第三者(親族やヘルパーなどの公的サービス)の協力も頼んでいる	7.その他	無回答	
全体	437	12.4	0.9	35.7	0.5	20.6	2.1	12.1	15.8
20代	40	15.0	0.0	47.5	0.0	30.0	0.0	2.5	5.0
30代	58	17.2	1.7	32.8	0.0	20.7	1.7	6.9	19.0
40代	63	12.7	1.6	39.7	1.6	22.2	4.8	4.8	12.7
50代	86	11.6	1.2	41.9	0.0	23.3	1.2	7.0	14.0
60代	105	9.5	1.0	31.4	1.0	21.9	1.0	16.2	18.1
70代以上	85	11.8	0.0	28.2	0.0	10.6	3.5	25.9	20.0

$\chi^2(30) = 46.504, p < .05^*$



- ◆ こうした考察を裏付けるためには、普段行っている家事・育児についてより詳細に尋ねる必要がある。

<その他の回答>

ほぼ一人ですべて	女性	30代
状況に応じて臨機応変に分担すればよい	女性	30代
男は仕事と家事、育児。女は育休を取り家事、育児に専念中。	女性	30代
全体で出来ることは誰でもしている	男性	40代
片親で全部やっている	女性	50代
子どもが小さいときは、男が仕事、女は家庭だったが、今は夫も家事をすることが多くなってきた	女性	50代
性別より年代の問題	男性	50代
男女とも無職で家事は女が多く分担している	女性	50代
定年までは仕事優先型でしたが定年は家事を手伝っています。	男性	60代
男女とも農作業だけ	男性	60代
男女関係なく、家事、炊事をする	男性	60代
仕事をしていないので、夫婦で家事や畑仕事を自分の力に合わせて分担している。	女性	60代
その時に出来るひとがしている	女性	60代
分担はしてはいるが、互いに出来ることをやっている。	男性	60代
男女共に仕事をし家事も分担している	男性	60代
私はパート勤務。夫は家にいるので家事は少し分担している	女性	60代
男女とも協力して働いている	女性	60代
夫婦とも退職し家事分担している	男性	60代
それぞれが向き不向きを考えるべきだと思います。	男性	70代以上
高齢なので出来ることは互いにするようにしている	男性	70代以上
その時の都合でどちらがやってもいいと思う。	女性	70代以上
今は仕事はしていないが、以前は男女とも仕事、家庭を分担していた。	女性	70代以上
男女とも無職	女性	70代以上
我が家は女性だけの家族構成なので、その時に出来る者がする	女性	70代以上
育児終わり男女共にそれぞれ仕事、家事をする	女性	70代以上
1人暮らしのため現在、自分で全て行っている	女性	70代以上

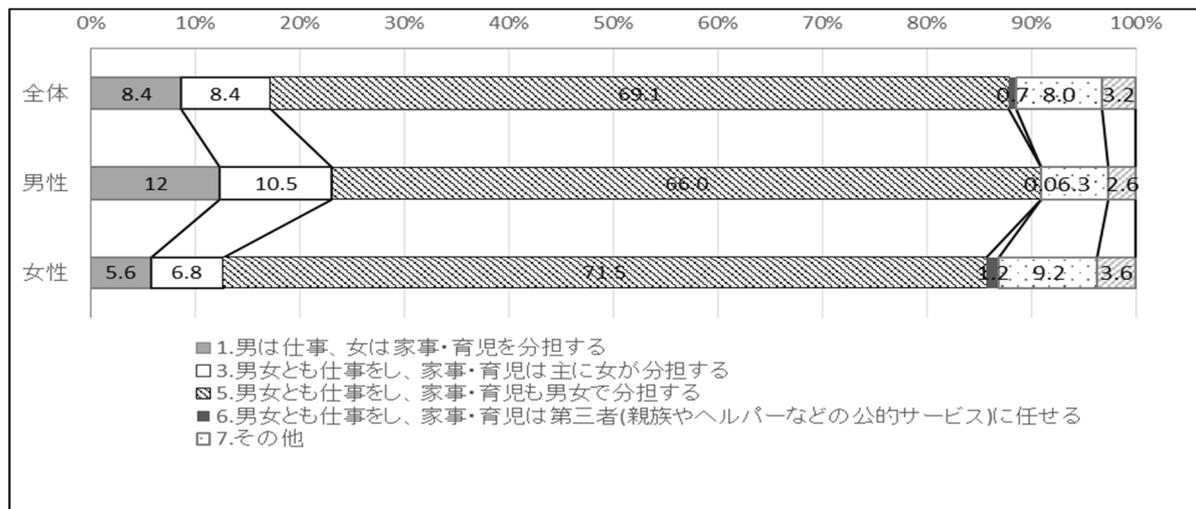
3 性別役割分担の理想（問 12）

◆ 「家庭での男女の役割分担について、あなたは本来どうあるべきだと思うか」という設問において、男女間でやや差がある。「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」を支持するのは、男性67.7%、女性73.0%と大差ない。しかし、「男は仕事、女は家事・育児を分担する」や「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女が分担する」において男女間で差がある。

性別集計:Q12. 男女役割分担理想

	度数	1.男は仕事、女は家事・育児を分担する	3.男女とも仕事をし、家事・育児は主に女が分担する	5.男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する	6.男女とも仕事をし、家事・育児は第三者(親族やヘルパーなどの公的サービス)に任せる	7.その他	8.わからない	無回答
全体	440	8.4	8.4	69.1	0.7	8.0	3.2	2.3
男性	191	12.0	10.5	66.0	0.0	6.3	2.6	2.6
女性	249	5.6	6.8	71.5	1.2	9.2	3.6	2.0

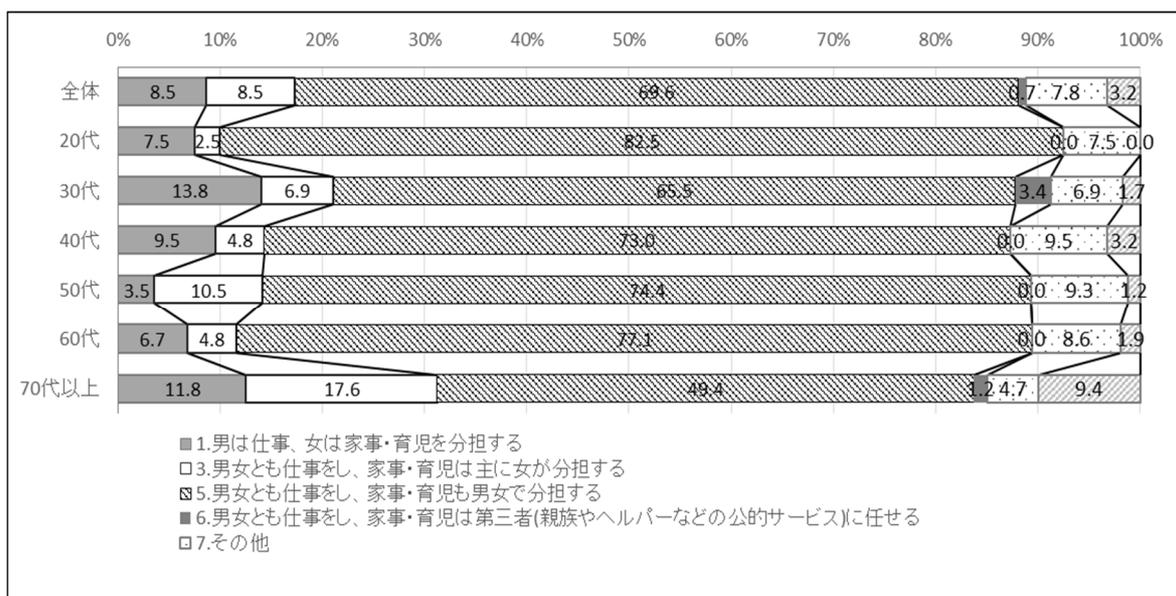
$\chi^2(3)=9.596, p<.05*$



年代別集計:Q12. 男女役割分担理想

	度数	1.男は仕事、女は家事・育児を分担する	3.男女とも仕事をし、家事・育児は主に女が分担する	5.男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する	6.男女とも仕事をし、家事・育児は第三者(親族やヘルパーなどの公的サービス)に任せる	7.その他	8.わからない	無回答
全体	437	8.5	8.5	69.6	0.7	7.8	3.2	1.8
20代	40	7.5	2.5	82.5	0.0	7.5	0.0	0.0
30代	58	13.8	6.9	65.5	3.4	6.9	1.7	1.7
40代	63	9.5	4.8	73.0	0.0	9.5	3.2	0.0
50代	86	3.5	10.5	74.4	0.0	9.3	1.2	1.2
60代	105	6.7	4.8	77.1	0.0	8.6	1.9	1.0
70代以上	85	11.8	17.6	49.4	1.2	4.7	9.4	5.9

$\chi^2(15)=35.672, p<.01**$



<その他の回答>

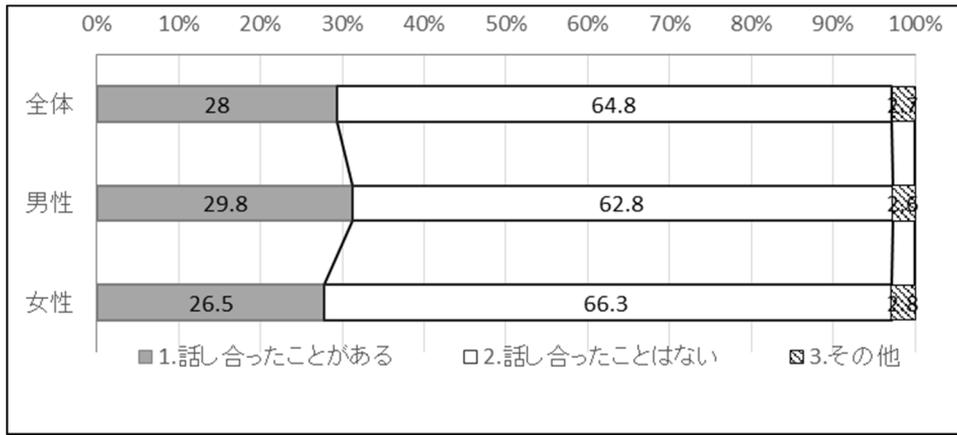
男女どちらかが仕事をし、家事、育児も男女で分担する	女性	20代
状況に応じてその時に最適な分担をすればよく、こだわる必要はない。	女性	30代
家庭によって違うので、こうあるべきというのではないと思う。	女性	30代
「あるべき」ということ自体違うのではないか。家庭によって違って当たり前。	女性	30代
家事・育児も分担し、親の協力も得る	女性	30代
夫婦で話し合い決める	男性	40代
男女ともやりたいことをする	女性	40代
その時々で共有すべき	男性	50代
労働の量は、基本同等でいいと思う。	男性	50代
男が女がといわず、得意とする分野を得意とする方が分担すれば良いと思います。どちらも仕事がしたいのなら家事、育児も分担するのが良いと思います。	女性	50代
男女を問わず個人の個性に合わせた生き方をすべき	女性	60代
休日は個々の役割をする。子供がいるので毎日は家事。	女性	60代
男は仕事、女は家事・育児でも良いが出来ることは男も手伝いやっていく。	男性	60代
決めるのではない。それぞれのライフスタイルがあつてよい	女性	60代
分担にこだわらない	男性	60代
責任のもてる事をすべきだと思います。	男性	70代以上
今のところ仕事が出来るので2人で楽しんでいる	男性	70代以上

4 性別役割分担についての話し合い (問 13)

- ◆ 家庭における性別役割分担について、話し合いの有無を問うている。
- ◆ 男女間に差は見られず、「話し合ったことがある」は、男性 31.3%、女性 27.7%と多くなく、反対に、「話合ったことはない」は男性 65.9%、女性 69.3%と高い比率である。
- ◆ 年代別では、30代で、「話し合ったことがある」42.1%と、他の年代よりもやや高い。

性別集計: Q13. 男女役割分担話し合い

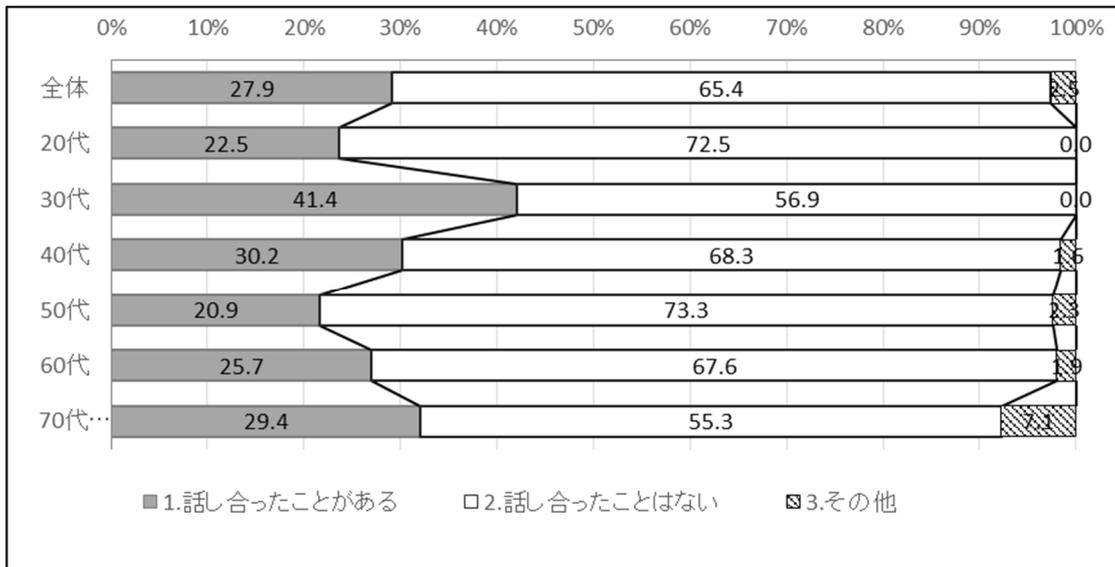
	度数	1.話し合ったことがある	2.話し合ったことはない	3.その他	無回答
全体	440	28.0	64.8	2.7	4.6
男性	191	29.8	62.8	2.6	4.7
女性	249	26.5	66.3	2.8	4.4



年代別集計: Q13. 男女役割分担話し合い

	度数	1.話し合ったことがある (%)	2.話し合ったことはない (%)	3.その他 (%)	無回答 (%)
全体	437	27.9	65.4	2.5	4.1
20代	40	22.5	72.5	0.0	5.0
30代	58	41.4	56.9	0.0	1.7
40代	63	30.2	68.3	1.6	0.0
50代	86	20.9	73.3	2.3	3.5
60代	105	25.7	67.6	1.9	4.8
70代以上	85	29.4	55.3	7.1	8.2

$\chi^2(10)=19.025, p<.05^*$



<その他の回答>

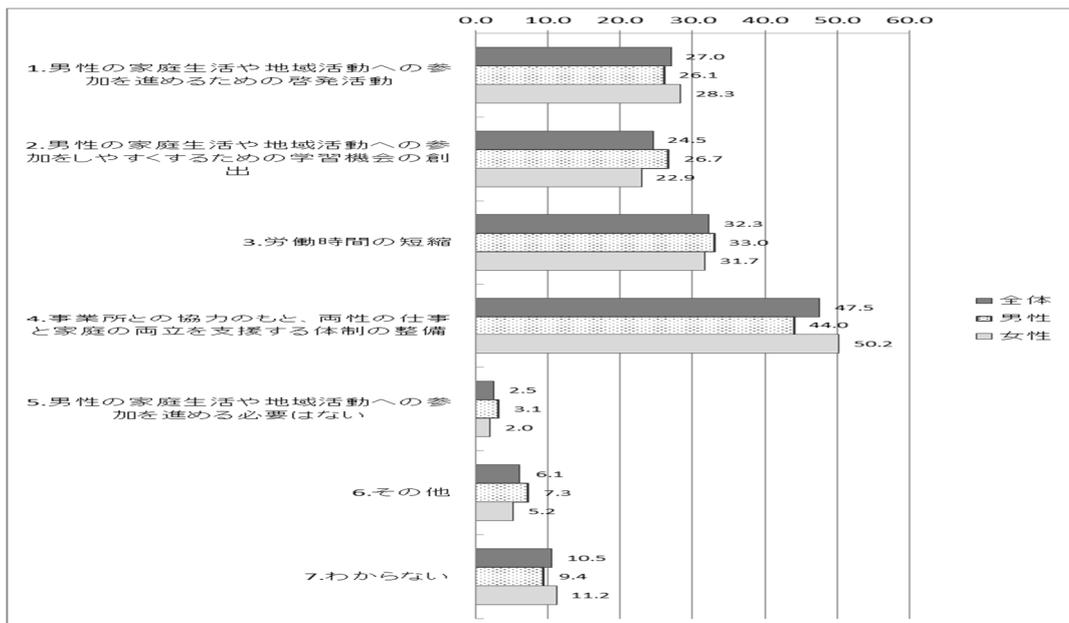
話し合うには至らないが、手伝ってほしい思いは伝えた。	女性	50代
前もって話し合いはないが、その時々で最善の方法で	女性	50代
前もっての話し合いは特はないが、その時々で最善の方法で助け合う。お互いに協力して築き上げていくものと思っている。	女性	50代
女に出来ないことは男に頼む	女性	60代
必然的に分担する様になった	男性	60代
話し合ったことはないが、共働きで家事は全て分担してきた。	女性	70代以上
女性は常に家庭にいる方が子育てには重要	男性	70代以上

5 男女共同参画に必要と思われること（問 14）

- ◆ 男女共同参画に必要と思われることとして、3つ以内を選択する設問において、「事業所との協力のもと、両性の仕事と家庭の両立を支援する体制の整備」が全体の47.6%と高いが、男性より女性のほうがさらに高い。次いで、「労働時間の短縮」32.0%と高い。
- ◆ 年代別に見ると、「男性の家庭生活や地域活動への参加をしやすくするための学習機会の創出」では60代が40.0%と高く、「労働時間の短縮」は20代が45%、30代が41.4%と高い。

Q14. 家庭生活参画に関する各設問の性別集計

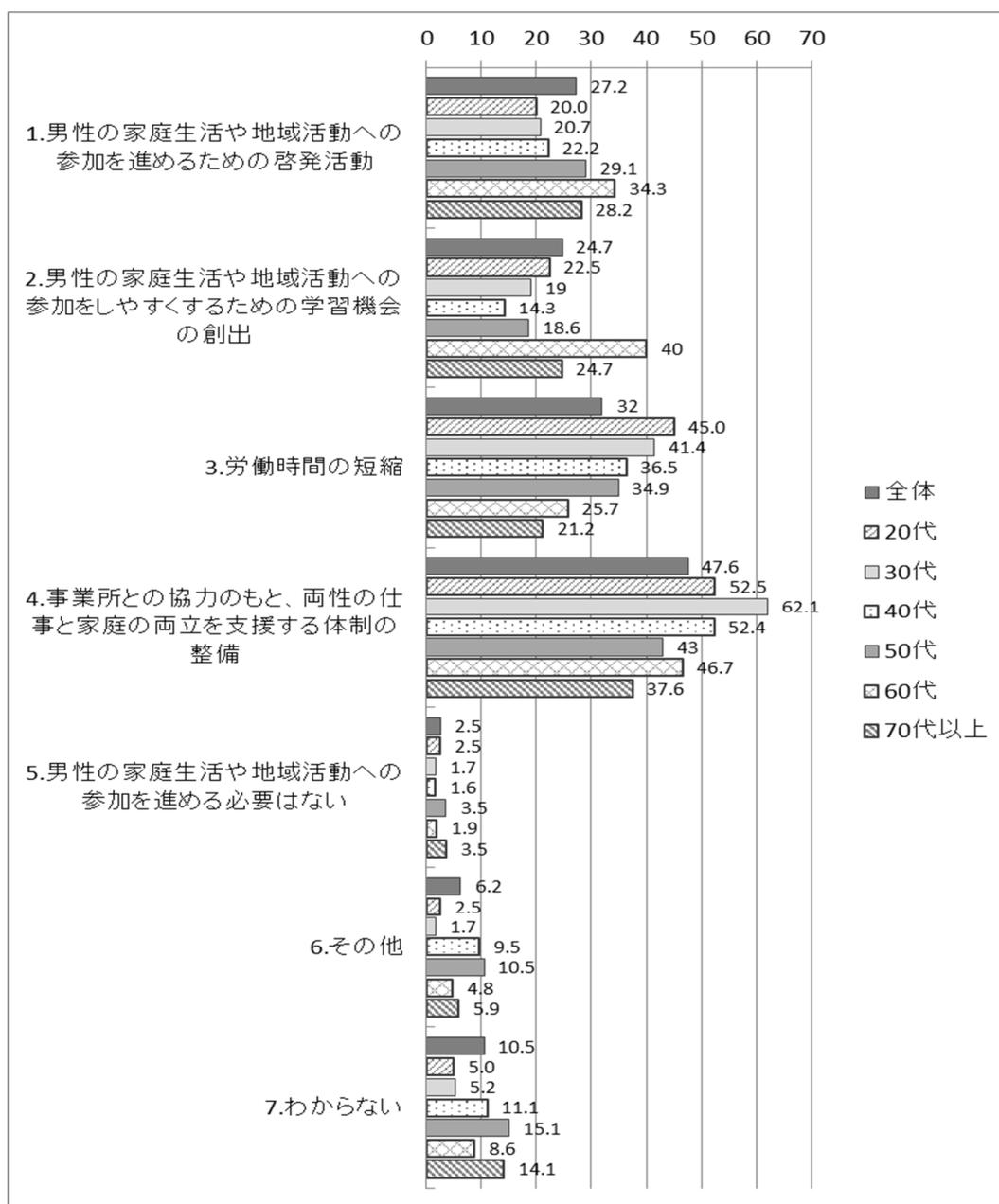
	度数	1.男性の家庭生活や地域活動への参加を進めるための啓発活動	2.男性の家庭生活や地域活動への参加をしやすくするための学習機会の創出	3.労働時間の短縮	4.事業所との協力のもと、両性の仕事と家庭の両立を支援する体制の整備	5.男性の家庭生活や地域活動への参加を進める必要はない	6.その他	7.わからない	無回答
全体	440	27.0	24.5	32.3	47.5	2.5	6.1	10.5	3.0
男性	191	26.1	26.7	33.0	44.0	3.1	7.3	9.4	2.1
女性	249	28.3	22.9	31.7	50.2	2.0	5.2	11.2	3.6



Q14. 家庭生活参画に関する各設問の年代別集計

	度数	1.男性の家庭生活や地域活動への参加を進めるための啓発活動	2.男性の家庭生活や地域活動への参加をしやすいするための学習機会の創出	3.労働時間の短縮	4.事業所との協力のもと、両性の仕事と家庭の両立を支援する体制の整備	5.男性の家庭生活や地域活動への参加を進める必要はない	6.その他	7.わからない	無回答
全体	437	27.2	24.7	32.0	47.6	2.5	6.2	10.5	2.5
20代	40	20.0	22.5	45.0	52.5	2.5	2.5	5.0	0.0
30代	58	20.7	19.0	41.4	62.1	1.7	1.7	5.2	3.5
40代	63	22.2	14.3	36.5	52.4	1.6	9.5	11.1	0.0
50代	86	29.1	18.6	34.9	43.0	3.5	10.5	15.1	1.2
60代	105	34.3	40.0	25.7	46.7	1.9	4.8	8.6	1.0
70代以上	85	28.2	24.7	21.2	37.6	3.5	5.9	14.1	8.2

$\chi^2(5) = 19.648, p < .01^{**}$
 $\chi^2(5) = 11.444, p < .05^*$



<その他の回答>

幼少期から参画に対する意識を覚えさせる	女性	20代
少ないとは思わない。むしろ私(男)のほうが多い。	男性	40代
本人の自覚の問題	女性	40代
男女とも価値観(固定概念)を変える必要	女性	40代
女性が積極的参加は必ず必要か?	男性	50代
男性の小さいときからの育ち方を考える時、その環境によって大人になっていく環境を啓発などで変えようとしても難しいと思う。	男性	50代
地域に友人、知人を作らないとなかなか参加できない。	男性	50代
魅力的な地域活動が不足	男性	50代
格差の問題	女性	50代
男性でも女性でも参加出来る方が、すればよいと思う。	女性	50代
定年になり時間に余裕が出来れば出来るが、主に女性になると思います。	女性	50代
年次休暇等の休暇を必ず取るように事業所が協力する等して家庭の仕事が出来る時間を確保すること	女性	50代
地域内のリーダーシップ等	男性	60代
参画することが少ないとは思わない	男性	60代
もっと税金を安くして、生活しやすく	女性	60代
60歳だからなのか、男は仕事、女は家庭を守ると思う。	女性	60代
介護などはその立場に立たされたら男でもやります	男性	70代以上
村の付き合いや家庭のことで精いっぱいである	男性	70代以上
家庭生活はしているが、外にはあまり出たくない様だ	女性	70代以上

III 子育て観・少子化について

1 子どもを育てる場合、男の子と女の子の区別を意識する場面 (問 15)

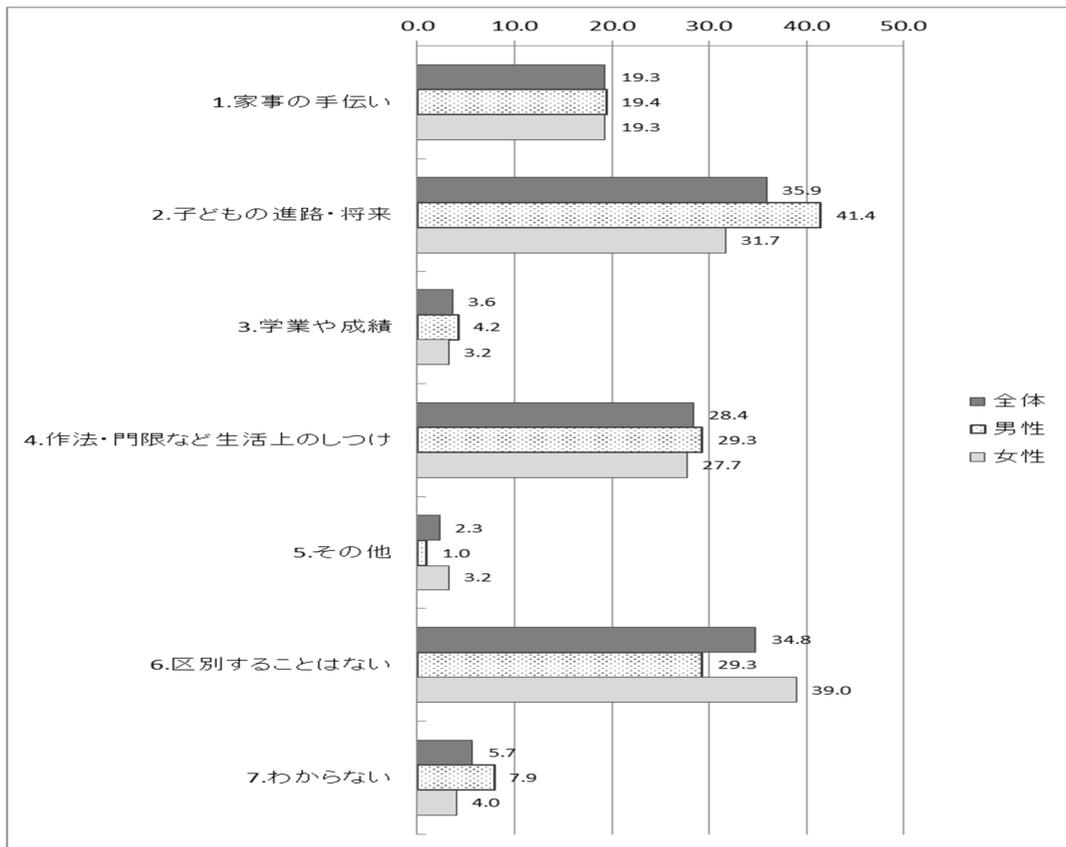
- ◆ 全体では、「子どもの進路・将来」35.9%であり、男性41.4%、女性31.7%と差がある。「作法・しつけ」は28.4%、「家事・手伝い」19.3%が区別すると回答している。「区別しない」は、全体では34.8%であるが、男性29.3%、女性39.0%と、女性のほうが高い比率である。
- ◆ 年代の比較では、総じて、年齢が高いほど、男女を区別する意識が高い傾向にある。

Q15. 子育てで性の区別を意識する場面に関する各設問の性別集計

度数	1.家事の手 伝い	2.子どもの 進路・将来	3.学業や成 績	4.作法・門 限など生活 上のしつけ	5.その他	6.区別する ことはない	7.わからな い	無回答	
全体	440	19.3	35.9	3.6	28.4	2.3	34.8	5.7	0.0
男性	191	19.4	41.4	4.2	29.3	1.0	29.3	7.9	0.0
女性	249	19.3	31.7	3.2	27.7	3.2	39.0	4.0	0.0

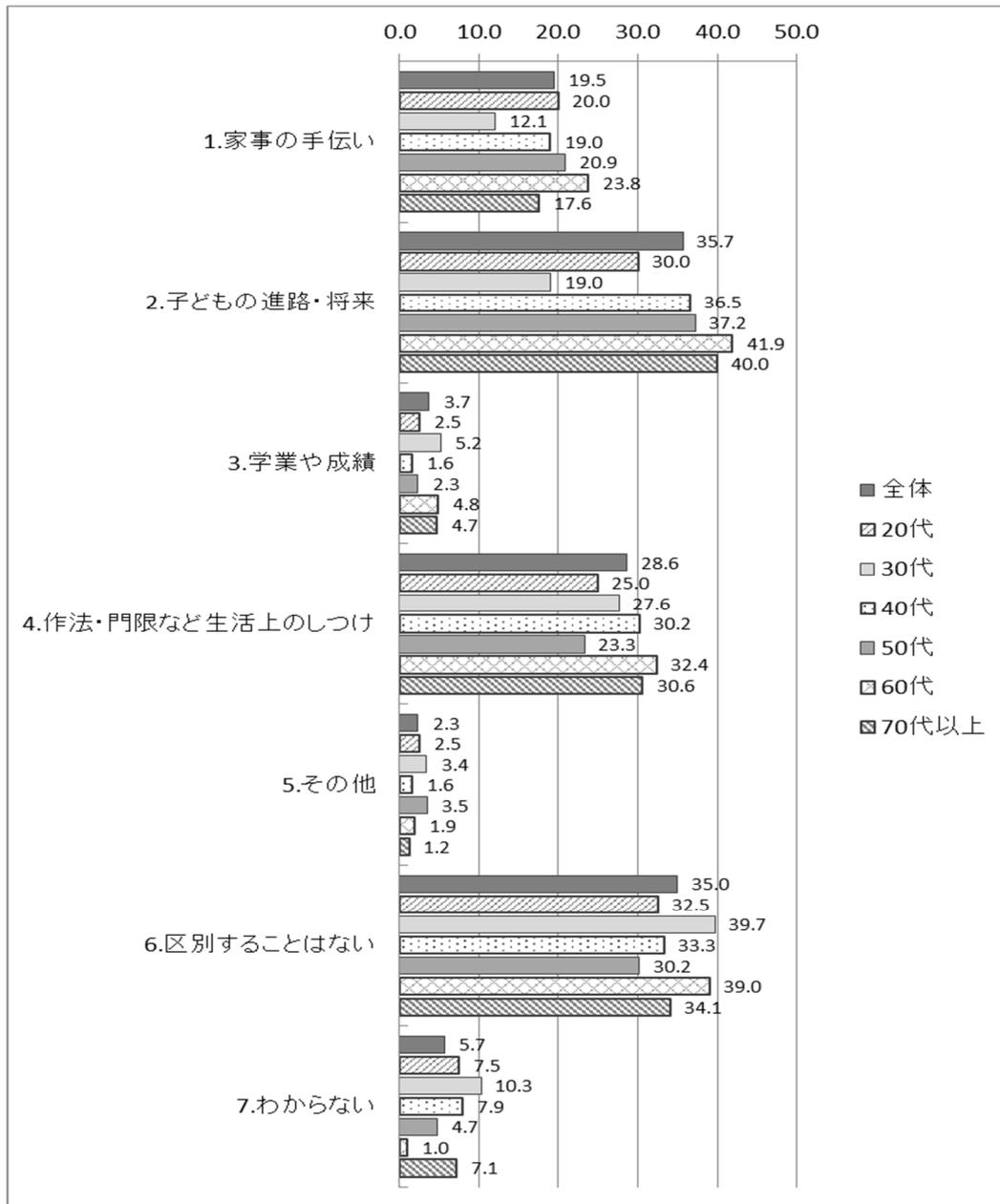
$$X^2(1) = 4.359, p < .05^*$$

$$X^2(1) = 4.425, p < .05^*$$



Q15. 子育てで性の区別を意識する場面に関する各設問の年代別集計

度数	1.家事の手伝い	2.子どもの進路・将来	3.学業や成績	4.作法・門限など生活上のしつけ	5.その他	6.区別することはない	7.わからない	無回答	
全体	437	19.5	35.7	3.7	28.6	2.3	35.0	5.7	0.0
20代	40	20.0	30.0	2.5	25.0	2.5	32.5	7.5	0.0
30代	58	12.1	19.0	5.2	27.6	3.4	39.7	10.3	0.0
40代	63	19.0	36.5	1.6	30.2	1.6	33.3	7.9	0.0
50代	86	20.9	37.2	2.3	23.3	3.5	30.2	4.7	0.0
60代	105	23.8	41.9	4.8	32.4	1.9	39.0	1.0	0.0
70代以上	85	17.6	40.0	4.7	30.6	1.2	34.1	7.1	0.0



<その他の回答>

社会の性別に依存された考え	女性	20代
性の違いによる物事のとらえ方など精神面と体力面	女性	30代
防犯上の指導。女の子は特に変質者対策	女性	40代
体調を崩したとき	女性	50代
男は強く優しく、女も強く優しく社会で自立出来るように。作法よりも人として。	女性	50代
就職時、女性の出来る仕事内容を選んでしまう。	男性	60代
子どもがいたら、男女同じく仕事、家事分担と思う。女性だって入院するかも。	女性	60代
家を継ぐ事	男性	70代以上